

柘植地域の女性は幸せか？

柘植地域

まちづくりだより

第224号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地

発行日 千五九一四〇二一
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三
(柘植地区市民センター内)

二〇一八(平成三十)年十一月十五日(木)

柘植地域俳句コーナー
幼子の
雀追っかけ
冬日向

小川秀子

女性対象の ワークショップ開催



男女共同参画といわれて久しいですが・・・

10月20日(土)午後、柘植地区市民センターで「柘植のみらいづくり塾」を開催しました。
今回の対象は、前回の「移住者対象」に続いて、「女性対象」でワークショップを行いました。(参加者20名)

最初に柘植地域の実情をグラフなどを見ながら考え、これからますます強まる「高齢社会」のありようを思い浮かべていただきました。

そのあと、上の写真のように、5つの班に分かれて、丸テーブルの「えんたくん」を使って次の2つのテーマを4人ずつ話し合いました。



- ① いまの地域暮らしにある不安や不満
- ② これからも暮らし続けるためには

※話し合いで出た内容は、2ページに少し紹介いたしました。

話し合いの後には参加者みなで写真撮影(2ページ参照)、そのあとは、みんなで円になって茶話会で交流しました。

今回は、区長さんを通じて参加者募集をしましたが、今後こうした研修の機会の際には、ぜひ進んでご参加ください。

な分野で12
区間の交流を
通じて、地域の
女性参画を
めざします。



参加者集合写真です
笑顔がステキ!



女性の目線で出された意見の一部を紹介します。読者のみなさんも自分事として考えてみてください。

① いまの地域暮らしにある不安や不満

- ・ 女性は子育てや家事で行事に出にくい。また役を持つには負担が大きいです。家事負担が軽減できる家庭づくり社会づくりを。
- ・ 元気なうちはいいが、店や病院に行くためには車が必要なので一人暮らしが不安。
- ・ 中学校の合併をしてほしい、生徒数が少なすぎる。部活もできない。
- ・ 女性同士のつながりがない。寺や区の行事の時だけ出会う程度。以前の婦人会とは違う形でのつながりが求められる。
- ・ 女性は楽しく語りあえるような場所がほしい。
- ・ 働く場が近くにない。
- ・ 地区行事に線引きがある、区単位にこだわらない場が必要。

② これからも暮らし続けるためには

- ・ 若い人(特に女性)が地域外へ出て行ってしまわない地域づくり。
- ・ 農業の担い手育成と同時に農業で生活ができるような地域づくり。
- ・ 空き屋の活用。お店を開きたい人が移住しやすくしたい。
- ・ 自然災害が少ない柘植の住み易いところをアピールしていきたい。
- ・ 女性が地域に目を向ける機会、気軽に入れるグループをつくる。
- ・ 子どもの人数が少ないので、競争がない。

子どもの成長にあった教育ができない。部活が成り立つよう統合してほしい。

区を取っ払って、皆で集まれるような行事をつくる。各区行事を区外の人に開放を。

区の取り組みは若い世代のライフスタイルや時代にあわせていくことが必要。

区やまちづくりで、役員・幹部以外の他の世代の話を聞いてもらうシステムづくり。

10月7日の防災訓練を経て...
初動リーダー会議開催

自主防災実行委員会
合同防災訓練後の10月20日(土)夜、市民センターで初動リーダー会議を開催し、初動リーダーの役割別に防災訓練を振り返りました。

今回、訓練前の事前打ち合わせの会議が台風のために中止となったことで、各グループとも避難所開設時には動きが鈍かったことが課題として出されました。

地震はいつ起こるかわかりません。今後、打ち合わせなしでもスムーズに行動できるように工夫する必要があります。痛感しました。



国の森林・林業施策に注目だ!

森林経営管理法が来春スタート

柘植の森林整備実行委員会

10月18日(木)午後6時から、県伊賀庁舎で林業施策に関して説明会が開かれました。



また、同日午前10時から、柘植地区市民センターで、三重大学生物資源学研究所の本竜彦教授や三重県伊賀農林事務所林業振興課や伊賀市農林振興課の方々と交えて、今後の柘植地域の山林環境整備や林業振興の方向性を探る打ち合わせも行いました。

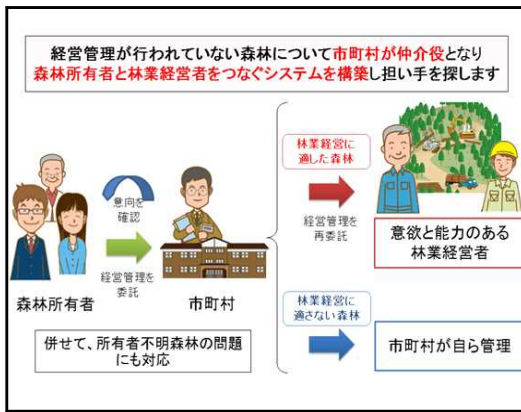
柘植地域ではこの2年間、生活環境部会を中心に林業に関する研修と啓発を充実させてきました。それにより森林・林業のことを多くの方に知ってもらうことができ、柘植地域内各々の連携のもと、「柘植の森林整備実行委員会」を立ち上げるとともに、

これからは、具体的な活動につながる取り組みを進めていくことが必要です。

H31年4月に施行される「森林経営管理法」によれば、森林所有者の責務として自らの山について適切な管理を継続することが明確になりました。また、市は「意欲の低い小規模零細な森林所有者の経営を意欲と能力のある林業経営者につなぐ」ことが求められることになりました。

こうした時代の変化に対応して、森林整備実行委員会が地域の受け皿になる。要がありま

林野庁HP → 経営管理について学ぼう!



スマホで柘植地域の獣害被害対策を!

生活環境部会 (鳥獣害対策係)

この秋以降、GPSの付けたサル(伊賀Cグループ)が、柘植地域に滞在しています。大きな被害はないものの、サルにとって柘植が住みよい地域になっていることは忌々しき状況で、繰り返しになりますが、なんとか地域外へ出て行ってもらいたいものです。

伊賀市の補助等によって購入配布した「追い払い煙火」を区や地域で有効に使っていただくようお願いします。



←さるドコネット用 QRコードです
詳しいアクセス方法は、『まちづくりだより』の第222号p3を参照してください。



←アニマルマップ用 QRコードです
詳しいアクセス方法は、『まちづくりだより』の第193号p2を参照願います。

特集

トトレランを 柘植のまちおこしに

平成最後の年、柘植の里を
約400名のランナーがさ
つそうと駆け抜けました。



みんなで
おもてなし



全国各地 海外からも...

ようこそ、柘植の里へ

—忍者トレイルランニング大会2018—



上町平地区では、住民のみなさんが
ポンポンと旗を振って出迎えました。



途中、旗山登山前には余興
で“喝”を入れてもらったり、
レースを楽しんでいました。



11月3日(土)、ベス
トコンディションの天
候の下、午前7時に大
山田温泉さるびのを出
発したランナーたちは、
8時半頃から柘植の里
に続々と到着されまし
た。



名阪国道をくぐって、 柘植の里へ入ってきた ランナーたち

エイドでの 豚汁ふるまい



ゆずの香りが光
る出来栄になり
ました！



柘植地区市民センタ
ーは、ランナーにとつての
貴重なエイドステーション
です。トイレや栄養補
給などホッとするとする場所。
有志の方による豚汁づく
りとおふるまいは毎年大好
評です。

沿道での
住民による声援

声援がランナーの心を熱くする！
柘植でのふれあいが思い出になる。



伊賀トレイルランニング
ランナーズクラブのウェブ
サイトで、レースのダイ
ジェストがご覧になれ
ます。



奥余野から横地野方面に曲がる三叉路。
ここからは下り中心で市民センターへ。
その後、霊山を越えて「さるびの」へ。



コース誘導で貢献



柘植の里の道は分岐や交差点が多いため、ランナーがコースを間違わないように21ヶ所で、地元ボランティアが誘導を行いました。